

文學博士石橋智信君著「メシア思想を中心としたるイスラエル

宗教文化史」ニ對スル授賞審査要旨

本書ハ、舊約全書ニ現ハレタルイスラエル民族ノ宗教信仰ニ就テ、メシアトイフ觀念ヲ中心トシテ、其ノ信念ノ發達ヲ文化ノ變遷ニ參照シテ研究シ、特色アル解釋ヲ施セルモノナリ。

凡ソ舊約全書ノ研究ハ西洋學界ノ重要部門トシテ幾多學者ノ著作アリ。其ノ中ニアリテ、メシア思想ニツイテハ、古來之ヲ以テ、救濟主ガ將來現ルベシトノ豫言の信念トシテ解釋シ來リ、近代ニ至リテハ、之ニ對シテ大ニ疑問ヲ生ジ、其ノ結果、異論紛出シ、研鑽愈密ニシテ論斷益ス相岐レ、殆ト出路ヲ知ラザル趣アリ。著者ハ專門ニ舊約全書ヲ研究スルニ當リテ、メシア思想ヲ中心トシ、西洋諸家ノ研究ヲ涉獵スル間ニ、其等ノ研究ハ、斷案ノ懸隔アルニ拘ラズ、何レモメシア思想ヲ以テ、未來ニ對スル豫言トスルガ爲ニ、肯定否定、共ニ正鵠ヲ得ザルモノ多キヲ發見シテ、茲ニ新方針ヲ以テ同問題ヲ研究セリ、其ノ結果即チ本書ナリ。

著者ガ研究ノ結果ヲ總括スレバ、メシア思想ガ未來ニ對スル豫言の希望トシテ現レシハ、舊約史中寧ロ後代ノ事ナリトイフニ歸着ス。即チメシア豫言ニ先チテ、理想ノ人格ヲ過去ノ典型ニ求メシ時代ト、此ノ如キメシア理想ノ幻滅ニ反省シ警醒シタル時代ヲ經テ、一度ハ現在ノ神政實行ノ中ニメシアノ出現アリト信ジ、最後ニ理想の人格ノ出現ヲ未來ニ憧憬スルニ至レリトイフニアリ。

即チ本書序篇ニアリテハ、メシア思想ノ前程トシテ、現在ノ利福ヲ謳歌シテ、其ノ典型ヲヤコブニ求メシ最古ノ思想ヲ論ジ、第一篇ハ「過去ノメシア」トイフ觀念ヲ闡明シ、神惠ヲ受ケタル民族ノ祖先ヲ理想的人格トシテ、其ノ福祉ヲ永續セントノ宗教思想ヲ明カニスルト共ニ、此ノ如キ觀念ト民族生活トノ聯絡ヲ明カニセリ。

第二篇ハ、過去典型ニ對スル信念ノ幻滅ニシテ、アモス、ホゼア等ノ豫言ヲ材料トセリ。即チ彼等ノ宣言セシメシアハ、内容ニ於テハ、幻滅ニ對スル甚深ノ反省ト警醒ニシテ、外部ノ事情ヨリ言ハム、國運ノ厄難、社會ノ紛亂、人心ノ腐敗ニ反應シタル宗教信仰ノ叫ビニ外ナラズトスルモノ、著者ノ斷案ナリ。

第三篇ハ、「現在ノメシア」ナル理想トシテ、ヨシア王ガ政教ノ大改革ヲ斷行シタル事實ト信念トヲ觀察シ、申命記法ノ内容ニツイテ、神ノ正義ト人民ノ福祉トノ聯絡ニ關スル思想ヲ明カニセリ。

第四篇ハ、此ノ政教改革ニツイテ出デタル法ノ解釋ト、豫言的警告ヲ觀察シ解釋セリ。即チ現實ノ法ト理想ノ法トノ關係ニツイテノ言論、正義ノ隆替ト民族ノ興敗トニ關スル思想ガ、如何ニ時勢ノ紛糾ト相應シテ勃興セシカ、又一般民衆ト豫言的警告者トガ、如何ニ衝突シタルカヲ明カニセリ。

最後第五篇ニ至リテハ、「未來ノメシア」ナル觀念ガ、エゼキエルヲ經テ第二エザヤニ至リテ、始メテ的確ニ現レシ事ヲ解明セリ。即チ前時代ノ紛糾、理想ノ衝突ニツヰキテ、終ニ眼前ニ亡國ノ悲運ヲ見ルニ及ビテ、豫言ノ精神的內容ガ、メシアヲ未來ニ憧憬スルニ轉ゼシ顛末ヲ、兩豫言者ノ生活境

遇、性格信念ニヨリ、又其ノ言論ノ精細ナル研究ニヨリテ立證シ、且ツ未來ノメシアニツイテモ、民族單位ノ觀念ト個人本位ノ思想トノ關係聯絡ニツイテ、前人ノ學說ヲ補正シ充實セル點少ナカラズ。著者ハ之ヲ以テ、第二エザヤ以後キリストニ至ルマデ、メシア思想ノ方向ヲ指摘シテ、本書ノ結末トセリ。

本書ノ論題ハ、前人ノ研究百ヲ以テ數フベキモノアリ、著者ガ其等ニ負フ所アルハ勿論ナルモ、著者ガ原典ノ研究ニ於テ、一々諸家ノ說ヲ批判シタルニ上ニ、自家ノ斷案ヲ立テタルハ、本書全體ノ學術的價值ヲ確保スルニ足ルモノアリ。而シテ其ノ研究ノ結果ハ、メシア思想ニツイテ前人ノ未ダ明カニセザリシ新意義ヲ發見シ、且ツ其ノ思想内容ノ發達ヲ、歴史ノ變遷ト個人思想家ノ信念トニ聯絡シテ解釋シタルハ、特ニ顯著ナル効果ニシテ、世界ノ學界ニ對スル重要ナル貢獻ト稱スベシ。假令ヒ著者ノ斷案ガ、今後修正ヲ要スル事アリトシテモ、此ノ如キ新見地ヲ以テ、世界學界古來ノ宿題ニ對スル一解釋ヲ提出シタルハ、少ナクトモ學界ニ對スル有力ナル啓發ヲ試ミタルモノトイフベシ。

本書ノ研究ハ、此ノ如ク原本材料ノ檢査ニ緻密ナルノミナラズ、見解識見ノ卓然見ルベキモノアリ、且ツ宗教信仰ト社會文化トノ聯絡ヲ明カニシテ、宗教史及文化史ノ上ニ重要ナル貢獻ヲナセルモノトシテ、功績顯著ナルヲ認ム。